

## ◆ 2022 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：NPO 法人 荒川流域ネットワーク

25A-12

代表者：代表理事 鈴木 勝行

URL : <https://arakawa-ryuiki.net>

### 1. 活動が必要とされた状況

入間川水系の各河川では、魚道がなく、長年の洗堀や河床低下により、東京湾からのアユの天然遡上が困難な状態が続いていた。それに対し、私たちは調査結果を元に埼玉県に改善を要請した。要請を受けて県により入間川・越辺川・都幾川の11ヶ所の堰等に魚道が設置された。遡上環境に課題がある堰については、私たち市民団体ができる範囲で環境改善に取り組み、魚道が未設置の堰に遡上環境を改善した上、設置に向け調査する必要がある。また、入間川水系の夏の風物詩であった地曳網・刺網・釣りなどの川漁体験を通して、流域の人たちや子どもたちに川漁や川遊びの文化を伝承していく必要があった。

### 2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

2022年度も新型コロナの蔓延防止のため、参加者を制限しての活動となった。例年菅間堰下流で行ってきた魚類相調査は河川工事のため実施できなかった。3月28日に長楽堰で堰下に土嚢を積み上げて落差解消作業を実施した（作業員4名）。遡上効果調査のための標識作業は5月24日に都幾川の長楽堰下流で行い、秋ヶ瀬取水堰で捕獲したアユ398尾に標識を付けて放流した（作業員6名）。7月1日の都幾川での投網解禁に合わせて矢来堰下流で調査を開始し、上流に向かい順次調査を実施。支流の槻川は8月23日、都幾川は10月24日まで調査した（調査従事者延べ82名）。アユ漁体験と魚捕りイベントは、好天に恵まれ4回開催することができた。8月11日に都幾川の嵐山町二瀬橋でスタッフ13名、参加者16名で実施、8月21日に高麗川の日高市獅子岩橋でスタッフ21名、参加者43名で実施した。9月11日に越辺川の鳩山町石今橋でスタッフ21名、参加者51名で実施。最後に10月9日に嵐山町二瀬橋で2回目のイベントをスタッフ15名、参加者15名で実施した。



長楽堰での標識作業(5月24日)



越辺川での地曳網漁体験(9月11日)



地曳網漁で魚を探す子供たち

### 3. 活動の成果

長楽堰での調査は、設置した土嚢が増水時流失し、確保できた稚アユ数が少なかったため仮設魚道を設置した状態での有意な調査結果を得ることができなかった。4回実施した魚捕りイベントは4回目の都幾川会場を除き増水状態はなく、良い状態で事業を実施することができた。毎年あるいは年数回参加する家族もあり、この活動が定着してきているようである。参加した若いお父さんたちも、川漁のファンになってもらうことができた。

### 4. 今後に残された課題

県により都幾川の矢来堰に魚道が完成したが、下流の長楽堰には魚道が未設置のため設置に向けた活動が必要である。高麗川にはまだ2ヶ所の遡上障害物になっている取水堰が残されていて魚道設置を進める活動も必要である。入間川水系へのアユの遡上数が大幅に減少しているため、東京湾からの遡上数を増やすための活動も必要となっている。